

## 宮崎県気候変動適応センター通信 第9号

## この冬、九州南部では記録的な暖冬となりました

- 九州南部の2020年冬（2019年12月～2月）の地域平均気温が、統計開始（1947年冬）以降、最も高温に。

表1 九州南部、奄美地方の冬の平均気温が高かった年と地域平均気温平年差

	2020年	これまでの1位	これまでの2位
九州南部	+1.9	+1.5（2019年）	+1.4（1998年）
奄美地方	+1.4	+1.6（2019年）	+1.3（1973年）

&lt;出典&gt;鹿児島地方気象台

- 宮崎県の全ての観測地点でも12月～2月の月平均気温が、統計開始以降、最も高温に。

表2 気象官署及び特別地域気象観測所の冬の平均気温

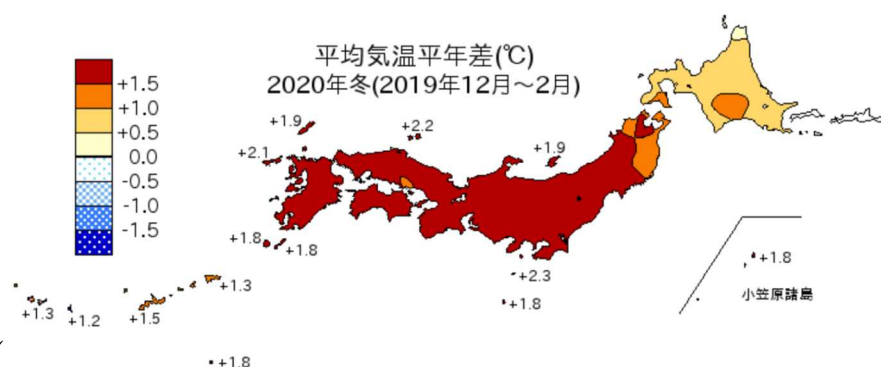
順位	地点名	値(°C)	平年値(°C)	平年差(°C)	これまでの1位(°C) (西暦年)	統計開始年
1	延岡	9.3	7.6	+1.7	9.0 (2019年)	1962年
1	阿久根	10.7	8.6	+2.1	10.2 (1949年)	1940年
1	鹿児島	11.5	9.6	+1.9	11.2 (1998年)	1884年
1	都城	9.1	7.0	+2.1	8.7 (2019年)	1943年
1	宮崎	10.5	8.5	+2.0	10.2 (2019年)	1887年
1	枕崎	11.7	9.7	+2.0	11.0 (2019年)	1924年
1	油津	11.4	9.7	+1.7	11.2 (1998年)	1950年
1	屋久島	14.2	12.4	+1.8	14.0 (2019年)	1938年
1	種子島	14.2	12.4	+1.8	14.1 (1998年)	1949年
2	名瀬	16.8	15.5	+1.3	17.0 (2019年)	1897年
3	沖永良部	18.3	16.9	+1.4	18.9 (1973年)	1970年

&lt;出典&gt;鹿児島地方気象台

記録的高温となった要因は、日本付近における偏西風（亜熱帯ジェット気流）が平年より北を流れたことや正の北極振動\*などにより、寒気の南下が弱く、冬型の気圧配置が続かなかったことが考えられます。また、背景として地球温暖化の影響も考えられます。 ※北極域の海面気圧が平年より低く、中緯度域の海面気圧が平年よりも高くなる現象

- 全国的にも、2020年冬（2019年12月～2月）の平均気温が東・西日本で最も高い記録を更新。
- また、冬の降雪量は全国的にかなり少なく、北・東日本日本海側で記録的な少雪に。

平年差（比）図（2020年冬（2019年12月～2020年2月））



&lt;出典&gt;気象庁

詳細はこちら↓

鹿児島地方気象台 <https://www.jma-net.go.jp/kagoshima/update/chosa/jma-kagoshima-20200302.pdf>気象庁 <https://www.jma.go.jp/jma/press/2003/02b/tenko201202.html>

## 宮崎県気候変動適応センター

事務局：宮崎県環境森林部環境森林課 電話：0985-26-7084 E-mail:kankyoshinrin.pref.miyazaki.lg.jp